

新春対談 市長×市民記者

市民記者の福田さん、尾島さんが、岡部市長に市政運営について聞きました。



(福田・尾島) 明けましておめでとうございます。本日はいろいろなお話を聞きたいと思っておりますので、よろしく願います。

(市長) よろしく願います。

(福田) さて市長、昨年を振り返ると、どのような年でしたか。

(市長) 昨年は、将来の移住・定住の促進に結びつけるため、交流人口や関係人口の増加を図るべく、「佐藤さんゆかりの地聖地化による関係人口増加プロジェクト」などさまざまな新規事業をスタートさせました。そして、全国規模の大会となる「日本女性会議」を本市で開催し、大いにPRをする予定でした。しかし、皆様ご存じのとおり、10月12日に東日本一帯を襲いました台風第19号の被災により、本市の市政運営も一変してしまいました。今までは災害の少ないまちとしてPRを図ってきたところでしたが、過去に例のない甚大な被害が出てしまいました。

台風以後は、全ての力を災害からの復旧・復興支援にあて、市民の方ができるだけ早く日常に戻るよう努めております。

台風第19号の被害と復旧の状況、今後について

(尾島) 台風第19号の被害はどのよう

なものがありましたか。また、現在の程度復旧していますか。

(市長) 秋山川の決壊をはじめ、旗川や才川および小曾戸川などからの越水により多くの家屋が床上・床下浸水し、同時に広範囲で土砂が流出しました。また、道路損壊や橋の崩落、さらに、野上、飛駒、秋山、会沢地区などでは、多くの土砂災害が発生しました。

現在は、道路や住宅地に流れ込んだ土砂撤去や災害ごみの処理も進み、市民の皆さんへの各種支援も開始され、復旧・復興に向けて取り組んでいるところです。

(福田) 災害により、苦労したことは何ですか。また、再び災害が起きた際に被害を最小限にとどめるため、どのような対策を考えていますか。

(市長) 複数の災害が発生し情報が輻輳するなか、刻一刻と変わる事態に対し早急な指示を出さなければならなかったことは非常に困難な状況でした。

再び災害が発生した際に被害を最小限にとどめるためには、河川の堤防の強化や土砂災害の危険が高い箇所への安全対策、砂防ダム整備をはじめ、電力や上・下水道、ガスなどの機能維持、生活などに必要な情報通信機能の確保などのハード対策が必



市民記者
尾島民江さん
(栃本町)

要でありますが、これらを整備するには長期的かつ莫大な予算も必要となります。

そのため、人的被害を出さないための取り組みとして、自助、共助、意識啓発などのソフト対策を推進しなくてはなりません。この度の災害では、市民の皆さんが早めの避難をしたことにより、ひとりも人命を失うことがなかったことは、何より幸いなことでした。これは、日頃から町会や自主防災組織による避難訓練、防災士の育成などが一定の効果を発揮したものと考えています。

また、昨年5月からは、災害発生の危険度を直感的に理解し、的確に避難行動ができるようにするため、避難に関する情報や防災気象情報を5段階の「警戒レベル」を用いて伝える取り組みを始めました。この内容を市民全員に理解いただき、早期の避難ができるよう、今まで以上に取り組みを進めていきます。



あそ野学園義務教育学校

について

(尾島) 市内初の義務教育学校が開校しますが、どのようなことに期待をしますか。

(市長) 今年4月開校の「あそ野学園」は小学校段階と中学校段階の教員が教育目標を共有して、9年間の継続的な学習指導と児童生徒指導を実施します。また、現行の小学1年生から中学3年生にあたる1年生から9年生までの幅広い異学年交流が可能となります。

義務教育学校の効果としては、「中学校への進学に不安を感じる児童の減少に大きな成果があった」「下級生の手本になろうとする思い、上級生に対する憧れの思いが高まった」などが挙げられており、「あそ野学園」においても同様の効果が考えられます。また、市内初の義務教育学校ということで、今後開校する葛生義務教育学校などの先進モデルとしての役割を担っていくことを、大いに期待しています。

佐野市国際クリケット場の活用について

(尾島) 国際クリケット場は、現在どのように活用していますか。また、今後どのように活用したいとお考えですか。

(市長) 佐野市国際クリケット場は、日本で唯一の天然芝ピッチを有する本格的なもので、現在日本クリケット協会協力のもと、国際大会をはじめ、国内大会・リーグ戦、市内社会人、小学生大会などが活発に行われています。また「クリケットタウン佐野」創造プロジェクト「佐野クリケットチャレンジ!!!」としても、国際大会などに合わせて、子どもが楽しめるアクティビティや佐野黒から揚げ店の出店など、多くの方に足を運んでもらうための取り組みを行っています。さらに、グラウンドゴルフや小学生のサッカーなどの地元スポーツ団体などにも、本来の目的であるクリケットや芝生の管理に支障がない範囲で活用したいと考えています。

今後は、訪日外国人が増加しているこの機会をとらえ、インドをはじめとするクリケット人気が高い国を中心に、このクリケット場をきっかけとした外国人観光客の誘客や地元産品の海外販路拡大、海外投資の呼び込みにつなげていきたいと考えています。また、国際クリケット場を多くの市民の新たな接点の場・学びの場とすべく、民間の

知恵や資金の活用を積極的に検討、取り入れた校舎等の再利用を行うことで、持続可能なクリケット場としていきたいと思えます。

世界的にはサッカーに次ぐ競技人口を誇るクリケットをうまく活用し、人口減少社会においても活力ある佐野市を目指していきます。

人口の減少への対策について

(福田) 少子化対策、子育て支援など、人口減少への対策はしていますか。また山間部における対策はありますか。

(市長) 本市では平成27年度に「人口ビジョン」を策定し、2060年の人口目標を85,000人に設定しました。この目標を実現するため、第1期佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略において、若者世代の定住促進や公共交通ネットワークの改善といった施策に取り組んでいます。効果が出てきたのか、30代の親子世代の転入増や、20代の男性の転出抑制などの傾向がみられるようになりました。

現在、令和2年度からの第2期総合戦略の策定に取り組んでいます。第2期戦略では基本目標に「女性が輝く社会」という文言を盛り込み、若年世代の女性がより住みやすく、子育てがしやすいような社会づくりを推進していきたいと考えています。

また、山間部においては、必要な生活環境を維持するため、基幹集落に複数の生活サービスや地域活動の場を集め、周辺集落とネットワークで結ぶ「小さな拠点」の形成を推進しています。さらには、都市部と山間部の拠点を、公共交通で結ぶ「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりに取り組むことで、人口減少の抑制につなげていきます。

未来に向けた取り組みについて

(福田) 将来の佐野市について、どうお考えですか。

(市長) 将来的には市民の皆さんが輝ける、人口減少社会にも負けない佐野市を築き上げていくことが必要となります。今年については、被災された皆さんが一日でも早く日常を取り戻すこと、そして、災害ごみの処理など、市としての日常を取り戻すことを最優先にしたいと考えています。そのうえで、今まで進めてきた計画や事業をなるべく滞りなく進められるよう、努力したいと思えます。市民の皆さんにはご苦労をお掛けしますが、ご理解いただきたいと思えます。

(福田・尾島) 今日はいろいろな話題をお話しいただき、ありがとうございました。



市民記者
福田満さん
(田沼町)